

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	10	○運営に関する利用者、家族等意見の反映意見箱が無く、情報発信の広報紙などがいないため、利用者、家族が意見を発信しにくい状態。	意見箱の設置や広報紙の発行を行ない、事業所と家族の意見交換を密にし、家族会などの設置を検討していく。	意見箱を設置し、広報紙を定期的に家族へ送付することで事業所と家族の相互での情報交換ができるようにする。また、家族へ行事等の参加を促していくことで、訪問しやすい事業所を作っていく、家族会の設置が出来るように取り組みを行っていく。	12ヶ月
2	35	○災害対策熊本地震発生時に災害対策の不十分な部分があった。	災害対策の見直し及び災害時の地域との協力体制の構築。	災害対策(マニュアル)を火災以外の災害でも作成し様々な災害を想定して避難訓練などを開催していくこと及び災害時に地域の方との協力が円滑にとれるように地域の方と共に体制を構築していく。	12ヶ月
3	49	○日常的な外出支援計画的に外出出来ておらず、突発的な外出になっていることが多いため、外出の機会が年間通して均一的になっていない。	計画を立て外出の機会を定期的且つ日常的に作っていけるように取り組む。	年度毎の外出を含めた行事計画を作成し、日常的にも1週間内で出来るだけ入所者全員が外出の機会がとれるように業務の見直しを行っていく。	12ヶ月
4	40	○食事を楽しむことのできる支援食事の内容について給食委員会以外で話し合いを設ける事ができていなく、検食も法人内で1食となっているため、事業所の職員が確認できていない。	事業所単位での検食を検討。また、職員伊給食委担当者を作り、味、量、盛り付け等を給食担当者を中心として話し合いを行なう。	給食担当の職員を作り、年間を通して話し合いの機会をいつ作るか計画。行事食や事業所単位での検食の実施などを厨房や法人へ意見として出す事で食事の大切さを職員で認識できる体制を作っていく。	12ヶ月
5	33	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援看取り介護について、職員間でも経験や知識、意識のバラつきがある。	終末期や、重度化した時、看取り介護の対応について、職員間で統一した知識、意識を持つように取り組んでいく。	職員ミーティングなどで看取りに関する議題を取り上げ、知識の向上を図ると共に終末期の利用者について、家族と職員、主治医でしっかりと話し合いが出来る体制を構築していく。	12ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。